

一般社団法人 日本画像学会 第 67 回定期総会議事録

日時： 2024 年 6 月 12 日（水） 13 時 00 分～13 時 45 分

場所： 東京工業大学すずかけホール/Zoom オンライン会議

出席： ・社員（委任状による者を含む）： 381 名

- ・役員 会長 藤井 雅彦
- 副会長 前田 秀一、木崎 宏恵
- 理事 面谷 信、加川 哲哉、小山 明紀、佐藤 利文、高橋 茂樹、
三矢 輝章、飯野 裕明、小林 範久、中井 洋志、橋詰 博徳、
岩田 基、宮本 篤生、三矢 輝章、木内 豊、田之上 剛
垣内 徹（記録）
- 監事 中居 達、服部 好弘
- 幹事 中山 信行、河野 信明、朝武 敦、福田 輝幸
- ・顧問 平倉 浩治
- ・事務局 竹内 達夫
- ・評議員
- ・主査・委員ほか 門永 雅史、宮本 栄一、亀井 稔人、西 眞一、中島 一浩、
江口 裕俊、関口 恭裕、吉田 健、平野 政徳、戸崎 雄介、
寺岡 克矩、鈴木 拓也、川口 正剛

<議事>

1. 開会の辞（中山運営委員長）

- ・定刻になったので只今から第 67 回定時総会を開催する。
- ・今年度の執行体制が下記の通り変更となる。

会長 藤井雅彦 副会長 前田秀一、木崎宏恵

2. 会長挨拶（藤井 会長）

執行体制が変更となったので、昨年度の振り返りとともに会長方針を説明する。

- ・昨年度トピックス

ICJ2023 開催(6/28-6/30)：参加者 約 200 名、発表 34 件

ICJ2023Fall 開催(11/13-11/14)：参加者 52 名、発表 13 件

4DFF2023(11/1-11/2)：参加者 130 名、発表 34 件

技術研究会

電子写真研究会、 電子ペーパー/フレキシブル研究会 開催。

Imaging Café

2回開催。23年度までで通算99回実施。今年度100回達成。今後の企画については、ワークショップで議論したい。

フリートーキング、関東シンポジウム、関西シンポジウム開催。

技術講習会、視覚と画像の基礎講座、複写機遺産認定(4機種)。

- ・23年度はオンラインからハイブリッド開催に移行し、平常の活動ができている。ただし、このまま元に戻るのか、というのには大きな問題がある。近年、個人会員数、維持会員数が減少傾向。現会員数は663名で最盛期の55%。技術の流行り廃れと捉える向きもあるかもしれないが、画像技術は価値を生み出さなくなったのかの問いには、NO。画像技術が使われている場所、必要とされる場所が多い。我々がアプローチできていない領域があるのではないか。画像技術の価値を創出して届けるために学会を活性化させていく。
- ・2024年度学会活動基本方針
 1. 学会のスコープ技術を生かす場所を拡げる。
学会関係者はサプライチェーンの上流にいる方が多いが、下流までを取り込む。
 2. 学会の役割を拡げる。
研究発表の場だけではなく、技術者・研究者の成長の場とする。
 3. 学会の組織、活動に若手、女性の参画を増やす。
問題・課題に対する感度の向上、多様な改善策、アプローチを導出する。
 4. 学会の存在価値・認知向上
今までやり方を変え、「誰に、どうやって」、アプローチが不十分な領域へ働き掛ける。
 5. 理事会・委員会組織の活性化
前述の方針を達成するための施策を実施する。その結果のレビューを含めて総会等で会長からお話ししておくこととする。

3. 定足数の確認・報告・議長選出（中山運営委員長）

①定員数の確認・報告

- ・定款第13条において総会成立は会員の過半数の出席が要件になっている。現在の会員数は611名であり、定足数は306名となる。
- ・出席者は、既議決者数30+委任者数299+本日の出席者数52 = 合計381名である。本総会の出席者数は定足数を十分満たしており、定時総会が成立する。

②議長選出

- ・定款第15条により総会議長は会員の中から選出することになっている。
- ・中山運営委員長より本日の参加から議長を募ったが希望者は無し。よって運営委員会から本学会の藤井会長を議長に推薦した。

賛成多数で承認された

4. 第1号議案：2024年度役員案【審議・承認】（中山運営委員長）

- ・定款第23条により当学会の役員任期は2年であり1年毎に半数を改選することになっている。
- ・役員承認（総会資料P1を参照）
2024年度改選候補（任期：2024年6月-2026年6月まで）
理事候補20名、監事候補1名
非改選役員
理事6名、監事1名
役員/役員候補総数：28名（理事/理事候補26名、監事/監事候補2名）、内新任7名留任21名
- ・その他、退任役員、幹事、顧問の紹介
2023年度あるいは2024年度総会をもって退任される理事・監事9名
2024年度幹事5名、顧問9名
- ・質疑を募ったがなし。

*第1号議案の審議結果

2024年度役員案について、賛成多数で承認された。

（事前投票：賛成29票、反対1票、議長/その他会員委任299票）

5. 第2号議案：2023年度事業報告【審議・承認】（中山運営委員長）

- ・事業報告詳細は総会資料を参照いただく形とする。主な5委員会について、スライドにて活動報告を行う。また、時間の関係上運営委員長から5委員会の委員長を代行して報告する。

(1) 編集委員会(宮本幹事) 中山運営委員長代行

- ① 委員会組織・活動(各種活動は基本的にオンライン化)
 - ・編集委員会6回開催、特集企画会議開催。
 - ・学会誌企画・編集、校正、各種WG。
- ② 学会誌
 - ・年6冊定時発行
 - ・Special Topics(12月号)として、
Computer Vision Technique, 英文解説6報を掲載。
- ③ その他活動
 - ・フリートーク開催
第42回「画像計測・処理・形成技術の新しい展開」と「画像技術や材料に関する各種規制に対する対応と今後(チョークポイントへの対応)」 2023/9/11
第43回「オンラインコミュニケーションの普及とこれから」 2024/3/11

・編集委員長選考、表彰

ICJ2023, ICJ2023Fall

(2) 技術委員会(小林理事) 中山運営委員長代行

① 体制

委員長：小林範久、副委員長：藤井雅彦・前田秀一

② 部会

新領域に向けた Vvision2030 見直し継続。他領域・学会との共同開催(日本機械医学会 IIP 等)

③ 討議・交流

メール主査連絡・会議(4/4, 4/25, 11/16, 12/19), 総会(1/19:参加者 56 名)開催

④ 複写機遺産

第 4 回複写機遺産募集・選定

⑤ 技術研究会

第 157 回(10/17) 電子ペーパー/フレキシブル部会

第 158 回(R6-2/20) 電子写真技術部会

(両会ともハイブリッド開催) 例年より少ないが 2 回実施。

最低 1 回/2 年の研究会開催を研究関連部会ミッションに明文化依頼。

⑥ 技術講習会・シンポジウム

ICJ2023(千葉大)(オーガナイズドセッション企画)

第 87 回技術講習会(ハイブリッド 7/3-7)

電子写真 Sim 技術講習会 (R6-3/1)

関西シンポジウム(ハイブリッド 5/19)

関東シンポジウム(ハイブリッド 12/15)

感性部会-視覚学会コラボ(オンライン 全 4 回 7/31-1/26)

IJ 技術交流会等等

⑦ 書籍

「画像処理」出版 (2024 年 3 月 東京電機大学出版局)

⑧ 頒布・販売

標準キャリア頒布(トナー技術部会)

(3) 企画委員会(中井理事) 中山運営委員長代行

① イメージングカフェ

・ 2023/4~2024/3 の期間で計 2 回(累計 99 回)実施

・ 今年度は 3 年半ぶりに完全リアル形式での見学会を開催(第 98 回)

・ 延べ参加者 36 名(会員 19 名/非会員 17 名)

② 2023 年度関東シンポジウム

・「イメージング技術の最新動向と未来」～この10年の技術の変遷から将来を読む
～と題し、2023/12/15にハイブリッド開催(参加者38名、うち現地19名)

(4) コンファレンス委員会(三矢理事) 中山運営委員長代行

① 2023年度年次大会 (Imaging Conference Japan 2023: ICJ2023)

[日本画像学会研究討論会(第131回): 日本画像学会年次大会]

- ・画像が拓く豊かな共奏社会の創造(Enriched Synergic Society Powered by Imaging)をスローガンに2023年6月28日～30日に開催した。(ハイブリッド形式)
- ・学会実行委員制移行後2年目、対面では初めての試行、体制根幹にかかわるクリエイティブな課題はなかった。
- ・テクニカルセッション以外に、キーノート1、バーチャルラボツアー1、記念講演2、懇親会1を実施。
- ・発表数54(目標60)、参加者数176(目標240) 目標に対して下回ったが、Covid明けとしては手ごたえあり。

(5) 事業委員会(木崎副会長) 中山運営委員長代行

① 第87回技術講習会「ニューノーマル時代の画像技術の基礎と応用」

日時: 2023年7月3日, 4日[EP]、5日、6日[IJ]、7日[シミュレーション]

会場: ハイブリッド(対面+Zoom)開催

(講師、事務局は「ユニコムさがみはら」で運営)

参加者: 77名 (78)内は昨年実績

<トピックス>

- ・参加人数は昨年同等。
- ・昨年対面での開催だったシミュレーション講習をハイブリッドで実施。
- ・講習の有意性・満足度は大変良好な評価(アンケート結果より)。
- ・初の試みとして、講師、受講者、実行委員で懇親会開催。技術者間の交流ができて好評。

② 秋のチュートリアル

- ・2023年度は開催見送り。
- ・2024年度に向けて、新しいイベントを企画中。

*第2号議案の審議結果

2023年度事業報告について、賛成多数で承認された。

(事前投票: 賛成30票、反対0票、議長/その他会員委任299票)

6. 第3号議案: 2023年度決算案・監査結果【審議・承認】(加川理事、中居監事)

(1) 2023年度決算報告

① 収支概要

- ・2023年度通期事業活動収支は65万7千円の赤字決算。9年ぶりの赤字決算。
(2022年度は233万円の黒字)

② 事業活動収入詳細

- ・対前年度事業活動収入 297万円減
会費 55万円減
検討・研究会/講習会参加費 14万円減
試験標準品頒布 245万円減
会費購読・BN頒布 13万円増

③ 事業活動支出詳細

- ・対前年事業活動支出 1万5千円増
会誌発行費 445万円増
検討・研究会開催日 94万円増
試験標準品作成日 172万円減
出版物作成費 3万円減
デジタル化費/事業機械化費 64万円減
諸委員会費/理事会・評議会総会費 123万円増

④ 事業収入の推移

- ・コロナ禍中から正会員費収入は微減。4年連続落ち込み。
- ・研究会、講習会参加費は近年微増だが、コロナ禍以前よりは少ない。

⑤ 事業支出の推移

- ・事業支出は3年連続度2,600万円台で推移。
- ・諸委員会/理事会・評議員会・総会のリアル開催で費用増加傾向。

(2) 2023年度監事監査報告

① 監査方法の概要

- ・監事は、理事会や重要な会議に出席するほか、日本画像学会の関係者から事業の報告を聴取し、重要な書類の回付を受け学会における業務及び財産の状況を調査致しました。
- ・日本画像学会の関係者および財務委員会から報告および説明を受け、監査委員会を実施し、決算報告書について監査を実施致しました。

② 監査結果

- ・業務の監査結果
日本画像学会の業務については、新型コロナウイルス禍が収束し、ハイブリッド型イベントの効果的な開催方法を取り入れながら、年度計画及び事業計画に基づき適正に運営されていると認めます。
- ・会計監査の結果

2024年4月25日、Web会議にて監査委員会を実施した結果、加川財務委員長より説明があった、2023年度日本画像学会決算報告書(貸貸対照表、正味財産増減計算書、収支決算書、財産目録 他)は、必要な事項を正しく示していると認めます。

*第3号議案の審議結果

2023年度事業報告について、賛成多数で承認された。

(事前投票: 賛成 30 票、反対 0 票、議長/その他会員委任 299 票)

7. 第4号議案: 2023年度事業計画/財務計画/年間予定【報告】

(中山運営委員長代読/加川理事)

■2024年度事業計画(中山運営委員長)

- ・ 第2号議案の2023年度事業報告同様、主要5委員会の2024年の活動計画について運営委員長が代表して報告させて頂く。
- ・ 活動計画に続き、2023年度財務計画について財務委員長より報告させていただく。
- ・ 5委員会以外の活動計画は配布資料を参照頂き、質問等をお願いしたい
- ・ 学会の体制図、常設委員会組織図、技術委員会/技術部会組織図を示して説明した。

(1) 編集委員会

① 組織

- ・ 編集委員会
定期委員会開催(年6回)
学会誌編集、校正
査読マニュアルの整備継続
- ・ 査読体制の強化の継続
主に技術・学術面と、主に体裁・要件を審査する2名査読者体制継続
技術面の査読候補者の拡充
執筆要項、査読マニュアルの改訂
- ・ 会誌電子配信の充実継続
海外在住会員、シニア・学生会員
- ・ 学会内他組織との連携
ICJ実行委員会との連携継続
ICJ2024 IT 特別セッション 「機能性ポリマー」

② 学会誌

- ・ 年6冊の定時発行

ICJ 発表からの論文勧誘の促進継続

年 1 回の英文クラスタ論文特集号

特集記事(IT/AT)の充実

Imaging Highlight, 教育講座、研究室訪問の連載を継続

③ IF(Impact Factor)取得

インパクトファクター取得に向けて活動開始。現状検討段階。今年度申請する予定。

・ ESCI(Emerging Sources Citation Index)へ収載

Clarivate 社への初回トリアージ申請

④ その他活動

・ フリートーク開催

第 44 回、第 45 回を企画、開催予定

・ ICJ 編集委員長賞、学会誌論文賞

(2) 技術委員会

① 新領域開拓

Vision2030 見直し・修正継続、部会ミッション遂行、部会の縦(掘り下げ)横(相互展開)展開

② 技術研究会の開催

③ 技術交流会の推進

④ 他学会/組織とのコラボ企画継続(日本機械学会 IIP、日本視覚学会等々)

⑤ ICJ2024(東工大すずかけ台)オーガナイズドセッション(部会企画)開催

⑥ 活動予定

・ 主査会議、技術委員会総会の開催

・ 他学会/組織とのコラボ企画模索(予算建て含めて)

・ 技術講習会(春・秋)、関東・関西シンポジウムへの協力

・ 第 5 回複写機遺産認定事業

(3) 企画委員会

① イメージングカフェ

・ 第 100 回を区切りとして新たな企画を立ち上げる。

・ 過去 100 回の内容を振り返り、画像技術の未来を討議するワークショップを ICJ2024 の中で実施する。

② 2024 年度シンポジウムの企画運営

・ 各技術部会による一年間の振り返りと、近年の技術トピック紹介を主とした内容で 12 月に開催予定

(4) コンファレンス委員会

① 2024 年度活動計画

・ 2024 年年次大会(Imaging Conference Japan 2024: ICJ2024)

[日本画像学会研究討論会(第 133 回): 日本画像学会年次大会]

本日無事開催。

<概要> 開催日:2024 年 6 月 12 日(水)~14 日(金) (Hybrid 形式)

会場:東工大すずかけキャンパス

学振:研究拠点形成事業の国際セッションを設ける

目標:発表 60, 登録 240(達成)

<実行委員長> 東工大 飯野裕明理事にお願いする

<改革>スローガンを刷新、会場を横浜に移し、Hybrid 形式における学会実行委員
制を継続させさせる、コロナ前企画の復活及び新企画の導入を実施

<スローガン> 画像価値多様化への挑戦 -来て・見て・語れ、画像技術の未来-

(5) 事業委員会

これからも若手/中堅技術者育成につながる活動を行います!!

① 第 88 回技術講習会 2024 年 7 月 8 日(月)~12 日(金)

サブタイトル ニューノーマル時代の画像技術の基礎と応用

- ・ハイブリッド開催(リアル会場は「ユニコムプラザさがみはら」)
- ・「基礎知識の習得と深化」で実務に直轄できるプログラム作り、講習内容の充実
- ・中堅者を対象とした技術動向、将来技術展望も盛り込む
- ・懇親会等イベントを企画
- ・シミュレーション講習も開催(シミュレーション部会と連携)

② チュートリアル企画

イベント企画中

■2024 年度財務計画(加川財務委員長)

(1)2024 年度予算編成方針

- ・2024 年度は、2023 年度実績をベースとして、対面イベント増加に伴う費用増を盛り込んだ。
- ・事業収入の部では、維持会員会費収入の漸減傾向を反映した。研討・研究会、講習会は実会場開催が増える見通しで参加費増とした。試験標準品は縮小傾向が続く予想とした。
- ・事業支出の部では、出版物製作費 200 万円が 24 年度にずれ込むため 200 万円を計上した。
- ・また、上記通り研討・研究会費用は実会場開催が増えるため 23 年度実績より増額とした。
- ・コロナ禍の期間から続く会費収入の減少は 23 年度も続いており、これを抑制するためにも研討・研究会や講習会への注力は重要であると考えます。

- ・以上を盛り込み、2024年度は、収入額を2,645万円、収支差額を220万円の赤字予算編成とする。

(2)収支予算概要

- ・会費収入漸減傾向を羽根井
- ・事業収支は新規出版の学会負担を反映
- ・収支上は220万円の赤字予算

(3)事業収入詳細

- ・会員数維持と維持会員口数減少歯止めを期待
- ・検討・研究会と講習会の対面開催化による増収を見込む

(4)事業支出詳細

- ・対面イベント増に備えて増額傾向
- ・新規出版の会費負担を反映
- ・22年度→23年度の傾向をもとに増額
- ・事務機械化費 23年度実績をベースに減額

(6) 投資活動, 財務活動収支

- ・繰越金が24年度予算で-220万円減額予定。全体の約5%。学会の活性化のためには必要な費用だと考える。

8. 質疑応答 (藤井会長)

- ・会場において質疑はなし
- ・別途アンケートでご意見いただいている。検討してアクションにつなげていく。
(中山運営委員長)

9. 閉会の辞 (藤井会長)

2024年度日本画像学会総会を終了します。

2024年6月12日

一般社団法人日本画像学会 2024年度総会議事録

総会議長 藤井 雅彦 印

議事録署名人 中山 信行 印

議事録作成者 竹内 達夫 印